

健康都市やまと総合計画・後期基本計画（案）

【目次】

基本目標 4（計画の体系）	．．．	1
基本目標 4（本文）	．．．	2
基本目標 7（計画の体系）	．．．	6
基本目標 7（本文）	．．．	7
基本目標 8（計画の体系）	．．．	11
基本目標 8（本文）	．．．	12
健康な行政経営（計画の体系）	．．．	17
健康な行政経営（本文）	．．．	18

基本目標 4（計画の体系）

前期基本計画の体系

後期基本計画の体系（案）

基本目標 4 未来に向かうこどもの学びと歩みを支えるまち

個別目標

めざす成果

- 4-1 こどもの広がりのある学びを育む
 - 4-1-1 こどもが確かな学力を身につけている
 - 4-1-2 こどもが個性・能力にあった教育を受けている
- 4-2 こどもの豊かな心・健やかな体を育む
 - 4-2-1 心身ともに健康に学校生活を送ることができる
 - 4-2-2 多様性を尊重し他者ととともに生きるための社会性が育っている
 - 4-2-3 こどもが豊かな感性を身につけている

個別目標

めざす成果

- 4-1 こどもの広がりのある学びを育む
 - 4-1-1 こどもが確かな学力を身につけている
 - 4-1-2 こどもが個性・能力にあった教育を受けている
- 4-2 こどもの豊かな心・健やかな体を育む
 - 4-2-1 心身ともに健康に学校生活を送ることができる
 - 4-2-2 多様性を尊重し他者ととともに生きるための社会性が育っている
 - 4-2-3 こどもが豊かな感性を身につけている

変更なし

基本目標 4（本文）

※前期基本計画の施策評価に基づく提言に対応した内容である文章等には「◎」を付けています。

個別目標 4-1 こどもの広がりのある学びを育む

現状と課題

- 将来の予測が困難な社会の中で、子どもが未来を切り拓いて生きていく力を育むことにつながる教育が求められます。
- 基礎的な学力や学習習慣の定着などと併せ、GIGAスクール構想※により整備した1人1台端末などのICT※機器を効果的に活用し、今後の情報社会の進展を見据えた教育を行うことが求められます。
- 障がいがある子どもや、支援を要する子どもの増加に伴い、教育的支援のニーズが増大、多様化しており、一人ひとりの状況に応じた可能性を伸ばす教育が求められるとともに、全ての子どもが互いの違いを理解しながら学び合える環境整備の重要性が高まっています。
- 社会の国際化が進み、外国語の語学力を身につけることに加え、異なる文化・習慣を持つ人々との共生が求められる中で、自らの意見を発信して具体的に行動できる態度・能力を身につけることが必要となっています。また、外国につながる子ども※と家族が円滑な日常生活を送るための支援も求められます。
- 小学校においては35人学級へのスムーズな移行、学校施設全体では老朽化への対応を着実に実施し、安全で安心できる快適な教育環境を確保していく必要があります。

※ GIGAスクール構想：GIGAはGlobal and Innovation Gateway for Allの略。文部科学省が進める取り組みで、1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現していくことです。

※ ICT：Information and Communication Technology（情報通信技術）の略です。

※ 外国につながる子ども：国籍だけでなく、言語や文化、家族など、何らかの形で外国にルーツを持つ子どもを指します。

取り組み方針

- 子どもの基礎的な学力の定着をめざすとともに、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」を明確にし、「主体的・対話的で深い学び※」の実現にむけて、子どもが自ら成長する力を育む学校教育を推進します。
- 子どもの学びを広げるため、知識の獲得や言語能力の向上に寄与する読書を推進していきます。また、学校図書館やICT機器などを適切に活用し、調べる学習の充実を図ります。
- 子どもが国際社会の一員として活躍できるよう、外国語によるコミュニケーション能力の育成と国際教育の充実を推進します。
- 外国につながる子どもに対し、日本語の言語能力など、教育的ニーズに応じた適切な学習支援を充実し、日本の学校生活へのスムーズな移行を支援します。
- ◎ 学習の基盤となる資質・能力の一つとされる、情報活用能力を育成するために、各学校において日常的にICT機器等を利用できる環境を整えるとともに、ICT機器等を効果的に活用した学習の充実を図ります。
- 大和市特別支援教育センターでは、通級指導教室等により子どもの特性に応じた支援を行うとともに、専門家が保護者などからの相談に応じるほか、教職員の指導力向上に資する研修施設の役割も果たし、特別支援教育に関する拠点施設として、総合的な支援を行います。
- 一人ひとりの学びを大切にしたいきめ細かい指導を推進するとともに、教員の実践力の向上、学校組織としての教育力の強化を図る取り組みを支えます。
- 学校施設や各種教材等の計画的な整備・更新と、学校の適正規模の確保を図り、快適な学習環境の提供を推進します。

※ 主体的・対話的で深い学び：平成29年に改訂された学習指導要領の中で示された、子どもに必要な資質・能力を育むための授業改善の視点です。

めざす成果 4-1-1 こどもが確かな学力を身につけている

一人ひとりの子どもが、未来に向かうための確かな学力を身につけています。

成果を計る主な指標		設定理由等
基礎的・基本的な学習内容の習得を計る振り返り調査 [※] の通過率	小3～小6	(継続)
	中1～中2	
児童・生徒の1か月の平均読書冊数	小4～小6	(継続)
	中1～中3	
◎「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募数		(継続) ■コンクールへの応募はあくまで児童生徒の主体性によるものであり、応募の傾向を把握するために設定しています。応募率を指標とした場合、目標値の達成に向けて学校側から児童生徒に働きかけるようになる可能性があるため、応募数のままが適当と考えます。
◎「教科書や本などと同じようにPCを活用できる」と答えた児童生徒の割合		■GIGAスクール構想に係る取り組みの成果を把握するため、新規設定を検討中。 ■また、教職員の情報リテラシー向上に関する提言に対し、最終的には児童生徒の情報活用力向上につながるため、その成果は本指標で評価できると考えます。
◎児童生徒の不読率		■読書習慣推奨の取り組みに関する指標として新規設定について検討中。

※ 振り返り調査：これまでの学習内容の定着度を計るために、過去に授業で学んだ国語や算数等について、どれくらい正解できるか調査するものです。

めざす成果 4-1-2 こどもが個性・能力にあった教育を受けている

子どもの個性や能力に応じた教育の機会が用意され、障がいの有無や国籍の違いなどに関わらず、子どもが生き生きと活動しています。

成果を計る主な指標	設定理由等
子どもの個性や能力にあった教育が行われていると思う市民の割合	(継続)
◎特別支援教育センター [※] で扱った特別支援や発達に関する保護者や学校からの延べ相談件数	■解決に至るまでの相談件数等の設定に関する提言に対し、実際には、子どもや保護者に寄り添いながら継続的に相談対応を行っていくことを重視している取り組みのため、相談体制の妥当性を表す指標として「延べ相談件数」が適切と考えることから、この考え方がわかるように目標の設定理由の変更を検討中。

※ 特別支援教育センター：支援を必要とする児童・生徒と、その保護者への相談や指導、教職員の研修などに総合的に取り組んでいくための施設です。

個別目標 4-2 こどもの豊かな心・健やかな体を育む

現状と課題

- コロナ禍における行動制限などは、子どもの生活習慣に影響を及ぼしています。子どもの健全な心と体の成長のため、体を動かす外遊びのほか、バランスの取れた食事や十分な睡眠など、規則正しい生活習慣を身につけることの重要性がさらに高まっています。
- 地震や火災、交通事故、現代的な課題である薬物やSNSに関連した犯罪等、子どもは様々な危険に遭遇する可能性があり、子どもが自ら身を守る力を獲得することが大切です。
- インターネット等により、見えない他者と直接の接点が生じる一方で、人とのつながりが間接的になることが多くなった現代社会においては、身近な人との関わりの中で思いやりの心を育てていくことが大切です。そのためには、自然や芸術に触れるなど、様々な体験を通し「豊かな感性」を育成する必要があります。
- 不登校やいじめの原因は、学校での人間関係や家庭環境によることが多く、「早期発見」「早期解決」に向けては、学校が子ども一人ひとりの状況をきめ細かく把握して対応するとともに、地域や家庭との連携を深めながら総合的に取り組んでいくことが必要です。

- 不登校は長期化・固定化の傾向にあります。各学校への不登校児童生徒支援員の配置など、これまで進めてきた「早期対応」のための取り組みに加えて、長期化・固定化する不登校への対応を含めたすべての児童生徒への支援体制を整えていく必要があります。
- 子どもの人間性や社会性を豊かに育むためには、異年齢の子どもや様々な知識・経験を持つ人々と地域で触れ合うことも重要であり、多様な関わり合いの中から様々なことを学べる環境を整えることが求められます。

取り組み方針

- 子どもが、心身ともに健康な学校生活を送り、さらに、生涯の財産となる健康を保持増進することができるよう、保健管理の取り組みを充実するとともに、健康教育を推進します。
- 成長段階に応じて安全で栄養バランスのとれた、おいしい学校給食を提供するとともに、子どもや保護者の食に対する知識や意識の向上を図るために、学校給食をモデルとした食育を推進します。
- 子どもが関わる交通事故の防止に向け、通学路等の安全確保に努めるとともに、交通安全教室などを通し、広く意識啓発を行います。
- 子どもが自ら危険から身を守るようにしていくため、命の大切さや安全についての理解を深めるとともに、関係する情報を正しく判断し、いざという時に適切な行動がとれるようにする安全教育を推進します。
- いじめや不登校も含めた児童生徒指導上の諸問題について、子ども一人ひとりに丁寧に関わり、未然防止と早期発見、早期解決に取り組みます。
- 子どもが日常的なコミュニケーションや、人との関係を円滑にするルール・マナー等を大切にするとともに、生き方や社会の在り方について深く考えることができるよう、社会性を育む道徳教育を推進します。
- 不登校の児童生徒については、早期の学校復帰を視野に入れ、在籍校の教育課程に沿った支援を行う教育支援教室「まほろば教室」において多様な教育活動を推進していきます。
- ◎ さらに、長期間不登校状態にある生徒に対しては、「不登校特例校分教室」において、学校への登校のみを目標としない、社会的自立に向けた多様な学びを提供していきます。また、「不登校特例校分教室」での取り組みを、市内全小中学校へ発信していくことで、各学校における不登校への対応力の向上を図っていきます。
- 子どもの感性や情緒を豊かにし、想像力を育む読書活動について、学校図書館と市の図書館との連携なども図りながら、より一層推進します。また、創造力を育む文化活動などを推進し、豊かな人間性を育みます。
- 学校・家庭・地域が互いに協力し合いながら、子どもの成長を支える取り組みを推進します。
- ◎ 異なる年齢の子どもたちがふれあい、様々な体験ができるよう、機会の充実に努めるとともに、放課後や休日における安全で楽しい子どもの居場所の確保に取り組みます。

めざす成果 4-2-1 心身ともに健康に学校生活を送ることができている

児童・生徒の健康管理や栄養バランスの取れた給食の提供などにより、心身の健全な発達が支えられています。

成果を計る主な指標		設定理由等
健康であるために運動が大切だと考えたと答えた児童生徒の割合	小4～小6	(継続)
	中1～中3	
小学校の給食残食率(野菜)		(継続)
給食における地産地消の割合		(継続)
学校P Sメール [※] 世帯普及率		(継続)
子どもの交通事故の市内発生件数		(継続)

※ 学校P Sメール：学校から保護者に向けて、犯罪、不審者、自然災害の情報、登下校時間の変更や行事のお知らせなどを伝達するメール配信サービスのことです。

めざす成果 4-2-2 多様性を尊重し他者とともに生きるための社会性が育っている

不登校やいじめに関する支援体制が整い、未然防止や早期対応による解決が進んでおり、子どもが毎日安心して学校に通っています。

成果を計る主な指標		設定理由等
いじめ、友人関係、家庭環境に係る不登校児童・生徒の改善の状況	小	(継続)
	中	
いじめ問題の解消率	小	(継続)
	中	
自分には良いところがあると思うと答えた児童生徒の割合	小4～小6	(継続)
	中1～中3	

めざす成果 4-2-3 こどもが豊かな感性を身につけている

学校や地域の中で、多様な人との関わり合いや自然・芸術に触れる体験を通して、子どもが豊かな感性を身につけています。

成果を計る主な指標	設定理由等
美術館等で対話による美術鑑賞を行った児童が美術作品に興味を持った割合	(継続)
放課後子ども教室参加率	(継続)
児童館の1日あたりの平均利用者数(全22館)	(継続)
中高生ボランティア参加者数	(継続)

基本目標 7（計画の体系）

前期基本計画の体系

後期基本計画の体系（案）

基本目標 7 豊かな心と感動が広がるまち

個別目標

めざす成果

- 7-1 読書と学びにいつでも親しめる環境を充実する
 - 7-1-1 読書をする人が増えている
 - 7-1-2 学びに関わる人が増えている
- 7-2 薫り高い文化芸術を創造・継承する
 - 7-2-1 文化や芸術に親しむ人が増えている
 - 7-2-2 郷土の文化がしっかりと引き継がれている
- 7-3 地域のスポーツ活動を推進する
 - 7-3-1 スポーツを楽しむ人が増えている

個別目標

めざす成果

- 7-1 読書と学びにいつでも親しめる環境を充実する
 - 7-1-1 読書をする人が増えている
 - 7-1-2 学びに関わる人が増えている
- 7-2 薫り高い文化芸術を創造・継承する
 - 7-2-1 文化や芸術に親しむ人が増えている
 - 7-2-2 郷土の文化がしっかりと引き継がれている
- 7-3 地域のスポーツ活動を推進する
 - 7-3-1 スポーツに関わる人が増えている



変更理由

「する」、「みる」、「支える」、「つながる」のそれぞれの方法でもってスポーツに積極的にアプローチしている人を、その方法によらず全体的に増やしていくため

基本目標 7 (本文)

個別目標 7-1 読書と学びにいつでも親しめる環境を充実する

現状と課題

- 自らの意思で自由に学び、自分自身や生活の質を高めていくこと、また、そのための重要なツールとなる読書は、「人生100年時代」という言葉が使われるようになってきている現代において、人生を豊かにしていくためにますます重要になっています。
- 読書は、新たな知識を得られるものであり、また、自ら考える力や感性を高めるとともに、表現力を磨く効果も期待され、生涯を通じて、学びや成長に寄与するものであることから、できる限り多くの場所と時間において本とふれあえる機会を創出していくことが重要です。また、新規感染症の拡大等によりその機会が失われることがないように、対応を検討し、準備しておく必要があります。
- 複雑化する現代社会に対応していくためには、新しい知識や技術の習得が求められます。また、健康寿命の延伸に伴い、高齢の方が自由に過ごせる時間が増えていることなどから、学習のニーズは一層高まっています。
- 生涯学習は、福祉や環境、人権などの社会に存在する様々な行政・地域課題に関する市民への理解促進へつなげる効果も期待されるものです。

取り組み方針

- 幅広い世代の人が読書に気軽に親しめるよう、市民の居場所としての役割も担う図書館について、文化創造拠点シリウスの図書館を中心としながら、中央林間図書館や渋谷図書館、その他学習センター図書室との連動とともに、学校図書館との連携強化も進めることなどにより、充実した読書環境を市域に広げていきます。また、図書館等が利用できない状況になった場合においても、読書の機会を一定程度継続して提供できる仕組みを構築し、平時から実施していきます。
- 図書館では、幅広い分野の資料を収集し、健康をテーマとした「健康都市図書館」など工夫を凝らしつつ、様々な本との出会いを提供します。また、図書返却ポストの増設など、利便性の向上を図っていきます。
- ◎ 子どもの想像力と豊かな心を育むとともに将来的な読書活動の促進を見据え、多言語化への対応を含めた蔵書の充実を図りながら、民間事業者等との連携により絵本に親しめる環境を増やすことなどにより、「絵本のまちやまと」の実現に向けた取り組みを進めていきます。
- 「健康都市大学[※]」における講座等の充実を図りながら、学習機会をきめ細かく提供していきます。さらに、講座の形態にとらわれず、より気軽に参加できるイベントを開催し、学習を通じた多様な交流や仲間づくりの機会の創出を目指します。
- ◎ また、学びを支える人材や団体の育成に取り組み、市民の学びの裾野を広げていきます。
- 市の学習施設を初めて利用する人や、現役をリタイアした人、また、「おひとりさま」でも気軽に参加できるよう、講座等のカリキュラムの内容をはじめ、学習情報のきめ細かな提供や相談体制などについて環境整備を進めていきます。

※ 健康都市大学：市民が講師を務める講座を毎日開催するなど、学び合いの場を設けることにより、市民の新たな居場所や市民同士のつながりを創出するとともに、既存の市民向けの講座の連携強化を図る取り組みです。

めざす成果 7-1-1 読書をする人が増えている

読書に親しめる環境が広がり、様々な場所や時間で読書をする人が増えています。

成果を計る主な指標	設定理由等
図書館の年間来館者数	(継続)
◎市民1人あたりの年間図書貸出冊数	■貸し出した図書の総数ではなく、大和市民への貸出冊数でもって算出することについて検討中。
図書館や保育所などでのおはなし会の延べ参加者数	(継続)

めざす成果 7-1-2 学びに関わる人が増えている

様々な学習機会が提供されることにより、自ら学ぶ人、学びを支える人が増えています。

成果を計る主な指標	設定理由等
市民一人あたり学習センター年間来館回数	(継続)
講座等の受講者数 → (代替指標) 健康都市大学における講座の受講者数	■健康都市大学がスタートしたことに伴い、指標の変更を検討中。
◎健康都市大学における市民講師数	■学びに関わる人のうち、教える側に係る指標として、新規設定について検討中。

個別目標 7-2 薫り高い文化芸術を創造・継承する

現状と課題

- 文化芸術は、人々の創造性を高め、感動や安らぎを与えるとともに、私たちの暮らしにうおいをもたらします。それは、生きる喜びや、いつまでもはつらつと元気に生活するための力にもなり得るものです。
- コロナ禍においては、相次ぐイベントの中止等により、文化芸術活動は大きな影響を受けました。今後は、ウィズコロナを踏まえ、感染症拡大時等においても文化芸術活動を継続できるようにする取り組みが求められます。
- 大和の文化を形づくる活発な文化芸術活動は、まちの魅力を高め、市民の地域への愛着意識を醸成することにも寄与します。市民による、自発的、主体的な文化芸術活動を促進するための環境づくりを行うことが必要です。
- 文化芸術には、教育、国際交流、まちづくりなどとの連携、展開が期待されており、他の行政分野との相互の関連性を活かした横断的な施策の実施が求められています。
- 少子高齢化の進展とともに、文化芸術、地域文化の担い手を確保することが難しくなっています。
- 地域の歴史や文化財への理解を深めることは、市民の郷土意識の醸成にも寄与します。これら郷土の財産を保護し、後世に継承していく必要があります。

取り組み方針

- ◎ 多様な担い手と連携、協力しながら、文化芸術の素晴らしさを伝えるための事業を展開します。
- ◎ 徹底した感染予防対策を前提として対面でのイベント等を実施しつつ、オンライン鑑賞やSNSによる情報発信を行うなど、新規感染症拡大時等においても実施可能な手法も取り入れて、多面的に文化芸術の振興を図っていきます。
- 市民の文化芸術活動に係る発表、創造の機会を充実し、場所の確保を図るなど、それぞれのニーズにあわせた適切な支援を行います。
- 他の行政分野との連携を推進することで、文化芸術を市民にとって一層親しみやすいものにするとともに、各分野が抱える課題の解決にも貢献する相互作用が生まれるよう、その振興に向けて取り組んでいきます。
- 子ども、若者に向けて文化芸術に関する施策を推進し、豊かな人間性を育むとともに、次代の担い手の発掘、育成に取り組めます。
- 市内で行われている文化芸術活動をはじめ、アーティストの活動のクローズアップやサポートなどを通じて、人々の大和の文化芸術に対する関心や、大和市に抱く文化的なイメージをさらに高めていきます。
- ◎ 市の歴史、文化財に関する資料及び情報を収集・保存するとともに、デジタルコンテンツも活用しながら、展示や刊行物等による普及啓発に努めます。

めざす成果 7-2-1 文化や芸術に親しむ人が増えている

文化芸術に親しみやすく、気軽に参加できる場が整い、文化芸術の鑑賞、活動を行う人が増えています。

成果を計る主な指標	設定理由等
文化や芸術活動が盛んに行われていると思う市民の割合	(継続)
芸術文化ホール年間利用者数	(継続)
YAMATO ART100 [※] 参加イベント数	(継続)

※ YAMATO ART 100：芸術の秋に市民団体、アーティスト、行政などが開催するアートイベントをまとめた総称で、大和の文化芸術を広く発信し、アート（文化芸術）の力で、人とまちを元気にすることを目的としたプロジェクトです。

めざす成果 7-2-2 郷土の文化がしっかりと引き継がれている

歴史的価値のある資料が体系的に整理、保存され、多くの人が郷土の文化に親しんでいます。

成果を計る主な指標	設定理由等
大和市の歴史や文化は、しっかりと継承されていると思う市民の割合	(継続)
歴史文化施設の利用者数	(継続)

個別目標 7-3 地域のスポーツ活動を推進する

現状と課題

- スポーツの楽しさや爽快感は、私たちの心にうるおいをもたらすほか、プレーする人のみならず、同じスポーツに関わっている全ての人たちの間で連帯感や達成感を共有することで、青少年の健全育成や、世代間交流にも寄与するなど、人々のつながりを深める重要な役割を果たします。
- スポーツは心と体の健康づくりにも寄与し、生きがいにもなることから、高齢化が進む現代にあって、その役割はますます重要になっています。
- 現代社会では、日頃が多忙さなどにより、自身が体を動かすことも含め、スポーツに関わることの優先順位が低くなりがちです。より多くの人々がスポーツに気軽に取り組み、また、様々な形で参加できるようにしていく視点を持ちながら、地域のスポーツ活動を推進していく必要があります。
- スポーツ施設については、経年劣化による老朽化や日常的な利用による傷みが発生することは避けられないため、計画的に修繕を実施していく必要があります。

取り組み方針

- ◎ 年齢や性別、障がいの有無に関わらず「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」市民がそれぞれのライフステージ・ライフスタイルに合わせて、生涯にわたって日常的にスポーツや運動に親しめる環境や機会を提供していきます。
- スポーツ施設について、計画的な整備や改修を進め、市民はもちろんトップ選手によるプレーにも対応できる充実した環境を維持していきます。
- トップレベルのアスリートによる試合などを招致し、子どもをはじめ多くの市民がスポーツの魅力を肌で感じられる機会を提供していきます。
- 運動機会を得ることが難しい子育て世代も含め、幅広い世代が身近な場所で様々なスポーツに親しむことができるよう「総合型地域スポーツクラブ[※]」の活動を支援します。
- 市民がスポーツの指導や大会の運営ボランティアなどとして、スポーツ活動を支えることのできる仕組みを整えます。
- 地域スポーツの推進を図るモデルケースとして女子サッカーをスポーツ振興の基軸に据え、本市のホームタウンチームである大和シルフィードの活躍を通して市民にスポーツの魅力を発信するとともに、スポーツへの関心を高めていくための取り組みを進めます。

- 今後も、国内で開催される国際的な大会や、本市ゆかりのアスリートが出場する大会など、スポーツについての情報発信を充実させつつ、「する」、「みる」、「支える」、「つながる」の4つの要素からアプローチする機会を市民に提供し、スポーツの推進を図っていきます。

※ 総合型地域スポーツクラブ：地域の方々に、興味や関心、技術に応じてスポーツを楽しむ機会を提供する、地域の方々に
よって運営されるスポーツクラブです。

めざす成果 7-3-1 スポーツに関わる人が増えている

「する」、「みる」、「支える」、「つながる」それぞれの要素からスポーツにアプローチできる環境が充実し、スポーツに関わる人が増えています。

成果を計る主な指標	設定理由等
◎週に1回以上スポーツをしている市民の割合 →（表現の修正）30分以上の運動やスポーツを週1回以上行っている市民の割合	■指標の意味が明確になるように表現を修正。
市民1人あたりの公共スポーツ施設年間利用回数	（継続）
年1回以上直接会場でスポーツを観戦した市民の割合	（継続）
スポーツに関わるボランティア活動を経験したことがある市民の割合	（継続）
女子サッカーイベント参加者数	（継続）
総合型地域スポーツクラブを知っている市民の割合	■スポーツのみならず、ボランティア活動等も実施し、「する」「みる」「支える」「つながる」すべての要素を含む総合型スポーツクラブについて、その認知度を把握するため、新規設定について検討中。

基本目標 8（計画の体系）

前期基本計画の体系

後期基本計画の体系（案）

基本目標 8 市民の活力があふれるまち

個別目標

めざす成果

- 8-1 互いに認め合う社会をつくる
 - 8-1-1 あらゆる差別がなくすべての人が互いの人権を尊重し合っている
 - 8-1-2 男女共同参画が実感できている
 - 8-1-3 地域の中で多文化共生が行われている
- 8-2 まちのにぎわいと地域経済の振興を図る
 - 8-2-1 商店街や企業が活発に活動している

⇒

個別目標

めざす成果

- 8-1 互いに認め合う社会をつくる
 - 8-1-1 あらゆる差別がなくすべての人が互いの人権を尊重し合っている
 - 8-1-2 男女共同参画が実感できている
 - 8-1-3 地域の中で多文化共生が行われている
- 8-2 まちのにぎわいと地域経済の振興を図る
 - 8-2-1 商店街や企業が**持続可能性を踏まえながら**活発に活動している

変更理由

SDGsの考え方が普及していることを受け、市と市内企業の意識の向上を一体的に図っていくため

- 8-2-2 市内で働く人が増え、生き生きと働いている
- 8-2-3 都市農業が営まれ、地域農産物が安定的に消費されている
- 8-2-4 多くの人が「大和」に訪れ、まちの魅力も高まっている
- 8-3 地域活動・市民活動を円発にする
 - 8-3-1 地域の活動が活発に行われ、絆が深まっている

⇒

- 8-2-2 市内で働く人が増え、生き生きと働いている
- 8-2-3 都市農業が営まれ、地域農産物が安定的に消費されている
- 8-2-4 多くの人が「大和」に訪れ、まちの魅力も高まっている
- 8-3 地域活動・市民活動を円発にする
 - 8-3-1 地域の活動が**様々な形で**活発に行われ、絆が深まっている

変更理由

地域を取り巻く社会環境の変化など地域課題が複雑多様化するなかで、これまでの地域活動に加えて、新たな枠組みによる持続可能な地域活動を支援していくため

- 8-3-2 公共を担う市民や事業者が増えている

- 8-3-2 公共を担う市民や事業者が増えている

基本目標 8 (本文)

個別目標 8-1 互いに認め合う社会をつくる

現状と課題

- 東京2020オリンピック・パラリンピック大会のレガシーの一つである「共生社会の実現」の取り組みにより、年齢や性別、障がいの有無、国籍などの違いに寄らず、だれもお互いの人権や尊厳を大切に支え合い、生き生きとした人生を享受することのできる社会を目指す機運が高まっています。
- ◎ 一方で、様々なハラスメント、インターネット上の誹謗中傷、性的指向や性自認の多様性への理解、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けた社会的弱者など、人権尊重を改めて考えることが求められる問題も顕在化しています。
- 配偶者やパートナーからの暴力である「DV」については、全国的に相談件数がさらに多くなっており、これは、コロナ禍における生活不安やストレス、外出自粛による在宅時間の増加等が影響していると考えられます。そのため、暴力の増加や深刻化が懸念されており、未然防止、相談体制の充実、被害者の安全確保などをより一層進めることが求められています。
- 性別による固定的役割分担の意識は、全国的に解消に向けた変化がうかがえますが、本市において重要な方針の決定に参画する女性の割合の増加率は鈍化しており、国の示す目標値に達していないなど、男女共同参画社会の実現に向けて解決すべき課題が残されています。
- 市内には多様な国と地域につながる市民が多く在住しており、また、近年はコロナ禍や景気低迷の影響を受け、生活面等において問題を抱える外国人市民からの相談が増えてきています。そのため、日常生活における情報支援のほか、日本人市民とともに社会に参画していく環境づくりが一層求められています。
- 平和都市宣言を行っている大和市は、決して戦争を繰り返してはならないという強い思いを持って、恒久平和と核廃絶に向けた取り組みを着実に進めていく必要があります。

取り組み方針

- ◎ あらゆる差別がなく、すべての人の人権が尊重されるまちの実現を目指し、社会の変化やそれに伴う新たな人権課題も捉えながら、年齢、性別、障がいの有無、国籍などに関わりなく、様々な考え方や多様な価値観の違いも理解し、認め合い、共に生き、支え合うことの大切さを学ぶ機会を提供するなど、啓発と教育を進めます。
- DVの未然防止に向け幅広い年代に啓発を行っていくとともに、相談窓口を周知することと、その窓口において相談者に丁寧に対応し、個々の状況や抱える課題に応じた情報を提供することを実施していきます。また、警察及び関係機関等との連携をより密にして被害者の安全確保、迅速な緊急避難を図ります。
- 性別に関わりなく能力を発揮できるよう、地域や学校、民間事業者等と連携し、ジェンダー平等の浸透を図るなど、男女共同参画社会の実現に向けた啓発を推進していきます。
- ◎ 外国人市民が、日常生活、災害時を問わず安心して暮らせるよう、外国人支援団体等と連携しながら、行政情報等の多言語提供のほか、相談窓口での対応を始めとする各種支援を進めていきます。また、国籍を問わず市民同士が支え合い、共に暮らせるまちづくりが実現するよう、文化事業や海外友好都市との交流などを通じて相互理解を深めることにより、外国人市民の地域社会への参画を促進していきます。
- 大和市平和都市宣言に則り、真の恒久平和の実現に向けた啓発活動を、時宜を捉えて実践していきます。

めざす成果 8-1-1 あらゆる差別がなくすべての人が互いの人権を尊重し合っている

年齢、性別、国籍、障がいの有無などによる差別がなく、また、家庭、地域、学校、職場などあらゆる場面において、誰もがその人らしく生き生きと活動しています。

成果を計る主な指標	設定理由等
◎地域に差別意識はないと思う市民の割合	(継続)
◎人権意識啓発におけるイベントの来場者数	■指標「地域に差別意識はないと思う市民の割合」を補足する指標として、新規設定について検討中。

めざす成果 8-1-2 男女共同参画が実感できている

性別に関わりなく、各々が能力を十分に発揮し、家庭、地域、職場、政策決定の場など、あらゆる場面で協力し、社会の発展を支えています。

成果を計る主な指標	設定理由等
男女が平等だと思える市民の割合	(継続)
審議会、委員会などにおける女性委員の割合	(継続)

めざす成果 8-1-3 地域の中で多文化共生が行われている

市民の間で国籍に関わらず活発な交流が行われ、相互理解が進んでいます。また、国際理解が深まり、平和への意識が高まっています。

成果を計る主な指標	設定理由等
多文化共生・国際交流が行われていると思う市民の割合	(継続)
外国人を支援するボランティア登録者数	(継続)

個別目標 8-2 まちのにぎわいと地域経済の振興を図る

現状と課題

- 市内で企業等が活発に活動することは、雇用の確保はもちろん、周辺に及ぶ経済効果も含め、まちのにぎわいに大きく寄与し、私たちの暮らしを便利にしてくれます。
- 持続可能な開発目標（SDGs）の理念が世界的に広がりを見せており、企業等に対してもSDGsを踏まえた経営や事業展開が求められつつあります。
- コロナ禍、原油・原材料価格の高止まり、近年の海外経済動向などの影響により、物価上昇が懸念材料となりますが、今後の景気は緩やかに上向いていくとみられています。景気が回復していった場合、全国的な生産年齢人口の減少と相まって、人手不足が生じると指摘されていますが、現在のところは、高齢の方や女性の労働参画率が高まっていることで、労働力が維持されている状態です。しかし、さらなる高齢化と人口減少の進展によって、労働力不足や後継者問題が深刻になると考えられています。
- コロナ禍からの景気の回復に伴って有効求人倍率も上昇傾向にありますが、非正規雇用が中心となっており、若い世代では、他の年齢層に比べ失業率が高くなっている状況は続いています。
- 都市農業が安定的に営まれることは、新鮮な農産物の供給のみならず、貴重な緑地である農地の保全につながり、都市の環境、景観、防災など多面的な役割も果たします。農業生産者の高齢化や後継者不足などから、営農環境の維持に向けた取り組みを支援する必要があります。
- 市内には貴重な緑地や公園、文化創造拠点シリウスをはじめとする公共施設があり、また、様々なイベントも開催されるなど、魅力的な観光資源を有しています。

取り組み方針

- 企業活動の振興に向け、SDGsの観点も踏まえながら、市内企業の継続を図るための操業支援のほか、高い交通利便性など本市の特性を生かし、企業の誘致に取り組みます。
- 「さがみロボット産業特区[※]」に加入する本市は、ロボット関連産業を誘致するとともに、生産性の向上に向けてロボットの導入を進める中小企業等を支援します。また、事業承継を含めた経営相談などに取り組むほか、資金調達や起業のサポートも進めていきます。
- ◎ 商店街の活性化を図るため、本市だけでなく国や県の支援策等を積極的に情報提供するとともに、魅力的な商品等の開発に向けた連携型チャレンジ事業や空き店舗の活用促進、社会貢献としてのアピールになるSDGsへの取り組み等と呼び掛けていきます。
- ◎ 若年者をはじめとする就職希望者に向けて、キャリアカウンセリングや体験型セミナー研修を実施していきます。また、ハローワーク大和と連携した就職支援イベントなどを通じて、未就労者の社会的・経済的自立に向けた支援に取り組みます。

- 健康経営優良法人を奨励することなどにより、中小企業の勤労者の福利厚生や技能の習得を支援していきます。
- やまと産業フェアなどにおいて地元農産物をPRしていくほか、新鮮で安全な地域農産物を生産する農家と市民をつなげるため、朝霧市[※]や夕やけ市[※]などの運営を支援します。
- ◎ 施設整備などによる農業の近代化を支援することで、農産物の安定的な生産等を推進します。また、農家の高齢化により農作業支援の需要増加が見込まれることから、援農サポーターの発掘・育成・充実に取り組んでいきます。
- ◎ 市内イベントの開催を支援するとともに、日常にある地域資源を生かした参加型のイベントの開催や、市の魅力の発信などを通して市民の地域への愛着意識を育むほか、フィルムコミッションの効果的な展開によってシティセールスを推進していくことにより、交流・流入人口の拡大を図ります。

※ さがみロボット産業特区：生活支援ロボットの実用化や普及を促進するとともに、関連企業の集積を進めることを目的に、国の指定を受け進めている取り組みです。大和市のほか、県内11の市や町が加入しています。

※ 朝霧市、夕やけ市：市内で開催されている農産物の直売市です。

めざす成果8-2-1 商店街や企業が持続可能性を踏まえながら活発に活動している

商店や企業に活気があり、持続可能な社会を目指しつつ、活発に経済活動を展開しています。また、新たに事業を始める人が増えています。

成果を計る主な指標	設定理由等
大和市は、買い物がしやすいと思う市民の割合	(継続)
市内商業者が商店会等に加入している割合	(継続)
市内事業所数	(継続)
法人設立数	(継続)
起業家支援スペース [※] の稼働率	(継続)
カーボンニュートラルの実現に向けたロボット等活用支援事業におけるコンサルティング実施企業数(累計)	■めざす成果の変更を踏まえ、持続可能性に配慮している企業等の実態を把握できる指標の新規設定について検討中。
◎起業サポートセミナー募集定員に対する参加者数の割合	■起業に関するニーズを把握する指標の新規設定について検討中。

※ 起業家支援スペース：これから起業する方や起業から間もない方を支援するためのレンタルオフィスで、市民活動拠点ベテルギウス内に設置しています。

めざす成果8-2-2 市内で働く人が増え、生き生きと働いている

市内での求人が増え、働く意欲のある人に就業の機会が提供されています。また、市内の職場の就労環境が安全かつ快適で、ワーク・ライフ・バランスも進んでいます。

成果を計る主な指標	設定理由等
市内事業所従業者数	(継続)
勤労者サービスセンター [※] の加入者数	(継続)
健康経営による産業表彰 [※] 数(累計)	(継続)

※ 勤労者サービスセンター：中小企業の事業主、勤労者及び行政が協力して相互扶助の精神に基づく総合的な福利厚生事業を行う任意団体です。

※ 健康経営による産業表彰：市内で働く勤労者の勤労意欲の高揚と市の商・工・農業の振興を目的とした産業人表彰のうち、従業員に向けた健康づくりに積極的に取り組む市内企業を表彰するものです。

めざす成果 8-2-3 都市農業が生まれ、地域農産物が安定的に消費されている

都市農業への理解が進み、農業生産が維持されて消費者と直結した地産地消が行われています。

成果を計る主な指標	設定理由等
援農サポーター [※] の登録者数	(継続)
朝霧市、夕やけ市、おさんぽマートの年間開催回数 → (代替案) 朝霧市、夕やけ市、おさんぽマートの開催1回あたりの来場者数	■アウトカム指標への変更について検討中。

※ 援農サポーター：高齢化や、人手不足などの悩みを持つ農家をサポートするため、一定の農業技術を身につけ、農業生産者のもとで農作業に従事する方を指します。

めざす成果 8-2-4 多くの人が「大和」を訪れ、まちの魅力も高まっている

大和市の魅力をPRするとともに、観光資源の活用が進み、交流人口が拡大しています。

成果を計る主な指標	設定理由等
観光イベントの総来場者数	(継続)
観光施設等の総来場者数	(継続)
フィルムコミッション [※] で対応した撮影件数	(継続)

※ フィルムコミッション：映画等の撮影場所誘致や撮影支援をする機関です。「さがみの国大和フィルムコミッション」は、平成23年に設立されました。

個別目標 8-3 地域活動・市民活動を活発にする

現状と課題

- 高齢化や核家族化、それに伴う一世帯当たりの人数の減少などにより、地域で助け合うことの必要性が高まっていますが、地域活動の中心的な役割を担っている自治会への加入率は年々、減少しています。
- コロナ禍により地域の活動が大幅に制限されたことに加え、地域を取り巻く社会環境の変化から地域課題が複雑化・多様化する中で、従来の取り組みだけではなく、新たな枠組みによる持続可能な地域活動が求められています。
- 地域活動の拠点となっているコミュニティセンターでは、施設の老朽化や、利用者の固定化がみられます。
- 公共的なサービスの担い手になっているNPO法人等の市民団体の中には、人材や資金の確保に不安を抱える団体もあります。
- 元気な高齢の方が増えている中、地域や社会に貢献したいと考える人をボランティアや地域活動に結びつけ、活躍してもらえるようにしていくことが必要です。活躍が進むことで、地域や市民生活の向上が図られるとともに、活動する本人の生き生きとした暮らしにつながることも期待されます。

取り組み方針

- ◎ 自治会連絡協議会及び関係機関との連携により、転入者や外国人市民、自治会未加入者に向けて、防災等で自治会が果たす重要な役割などについて周知啓発を行います。また、ウィズコロナを踏まえた自治会の取り組みをより積極的に支援するなど、地域の絆を深めながら自治会への加入を促進できるよう取り組んでいきます。
- 社会環境の変化に合わせたきめ細かな支援により、地域活動や市民同士の支え合いが持続的かつ活性化できるよう取り組んでいきます。
- コミュニティセンターの快適性を高める施設改修や、利用しやすい環境づくり、自治会館の施設整備の支援などを行い、地域活動の拠点の充実を図ります。
- NPO法人等の市民団体について、設立支援や活動場所の提供を行うなど、公共的な活動に行政と協働して取り組みやすい環境づくりを進めます。

- ◎ ボランティア活動を希望する人に対し、文化創造拠点シリウスにおけるイベント開催時に出張案内所を設けるなど、様々な機会を捉えて、幅広い世代に対し積極的な情報提供を行うとともに、気軽に安心して参加できる環境を提供していきます。

めざす成果 8-3-1 地域の活動が様々な形で活発に行われ、絆が深まっている

地域の中で住民同士が世代を超え、様々な枠組みで活発に交流し、多種多様な活動が行われています。

成果を計る主な指標	設定理由等
地域活動に参加している市民等の割合	(継続)
自治会への加入世帯割合	(継続)
コミュニティセンター1館当たりの年間平均利用者数	(継続)
※自治会と市民活動団体のマッチングに関する指標	■めざす成果の変更に伴い、新たな形の地域活動に関する指標として、新規設定について検討中。

めざす成果 8-3-2 公共を担う市民や事業者が増えている

行政との役割分担のもと、気軽に参加しやすい風土が醸成され、公共的な活動に取り組む市民や事業者が増えています。

成果を計る主な指標	設定理由等
市民活動センター利用登録団体数	(継続)
◎市からのボランティア情報提供者数	(継続)
◎ボランティア情報の件数	■「市からのボランティア情報提供者数」とともに評価することによりボランティア活動の状況をより詳しく把握できるよう、新規設定について検討中。
ベテルギウス（本館）年間来館者数	(継続)

健康な行政経営（計画の体系）

前期基本計画の体系

後期基本計画の体系（案）

分かりやす行政経営

個別方針

- 1-1 相互理解に基づく行政経営
- 1-2 目標設定による行政経営

個別方針

- 1-1 相互理解に基づく行政経営
- 1-2 目標設定による行政経営

即応性の高い行政経営

個別方針

- 2-1 健全で持続可能な行政経営
- 2-2 機能的な組織・態勢づくり

⇒

個別方針

- 2-1 健全で持続可能な行政経営
- 2-2 機能的でデジタル・ガバメントにも対応した組織・態勢づくり

変更理由

デジタル・ガバメントを実現していくためには、DXに対する職員の理解を深めつつ、行政をデジタルを前提とした組織へと変革していくことが必要のため

- 2-3 公共施設・公有資産の適正管理

- 2-3 公共施設・公有資産の適正管理

即応性の高い行政経営

個別方針

- 3-1 資質の高い職員の採用
- 3-2 職員の能力向上
- 3-3 職員の意欲を高める配置・環境づくり

個別方針

- 3-1 資質の高い職員の採用
- 3-2 職員の能力向上
- 3-3 職員の意欲を高める配置・環境づくり

健康な行政経営（本文）

方針1 分かりやすい行政経営

現状と課題

- 少子高齢化や人口減少の進展、デジタル技術の進歩、ライフスタイルの多様化などを背景として、基礎自治体に取り組むべき行政課題も複雑化、多角化してきています。
- このような状況にあって、近年、自治体間での定住人口の獲得や地域の活性化に向けた競争が加速しています。市民から信頼される開かれた行政は、都市の持続可能性という観点からも重要になってきています。
- 今後も行政サービスの効率的かつ効果的な提供に努め、理念や目標を市民と共有し、透明性の高い行政経営を継続していくことが必要です。

取り組み方針

相互理解に基づく行政経営

- 市政等に関する情報を分かりやすく提供、公開するとともに、より広く、多くの人に行きわたるよう、デジタル技術等を有効に活用しながら様々な媒体を通じてきめ細かく発信し、市民との共有を図っていきます。
- 市民意見について、幅広く集めることはもちろん、きめ細かく丁寧に聴取する機会を設けながら、その声を市政の推進に活かしていくとともに、市民の代表である議会との意見交換、連携を図っていきます。
- 市民ニーズを的確に捉えながら、新たな分野や複雑化する行政課題へ対応していくため、自助、共助、公助の役割分担のもと、市民の協力や協働はもちろん、民間事業者や学術研究機関との連携を深めていくほか、国県等への要望を行うなど、様々な手法を通じて取り組みを進めます。

目標設定による行政経営

- 社会経済情勢や国の動向、コロナ禍の影響などを踏まえ、市政の方向性等を明らかにするとともに、適切かつ市民に分かりやすい目標設定に努めます。
- 施策や事業等の成果の検証にあたっては、学識経験者や市民から専門的・多角的な意見を聴取し改善に取り組むことで、マネジメントサイクル[※]を効果的に運用し、将来都市像の実現に向けた取り組みの実行性を高めていきます。

※ マネジメントサイクル：事業活動を円滑に進める管理手法の一つで、計画、実行、評価、改善の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する手法などをいいます。

方針2 即応性の高い行政経営

現状と課題

- デジタル化が進む中での技術革新や国際情勢の動向、国内の少子高齢化の進展など、様々な要因により急速に変化する社会情勢等と、これらに伴い複雑化する市民ニーズや行政課題に対応できる機動的で柔軟な行政経営が求められています。
- 限りある行政資源を有効に活用するためには、より効果的かつ効率的な行政経営のあり方を常に検討し、実践していくことが重要です。
- 行政サービスを受ける市民等が分かりやすくスムーズに手続を行えるよう、また、市の取り組みが最大の効果を発揮できるよう、時代の変化を捉え、デジタル技術の活用を図りつつ、組織体制を整備し、その機能を高めることが必要です。
- 今後30年以内に高い確率で発生するとされている「首都直下地震」などの大規模災害に見舞われても、行政機能の停滞を最小限にとどめられるよう、事前に態勢を整えておくことが必要です。
- 本市の公共施設等については、その多くが昭和30年代後半から平成初期にかけて整備されており、老朽化に対応していく必要があります。

健全で持続可能な財政運営

- 市民生活の質を高める施策、事業等を将来にわたって行うことができるよう、市民目線を大切にして選択と集中を進めながら、健全で持続可能な財政運営を維持していきます。
- 市税や保険料等の適正な賦課・徴収を行うことにより、負担の公平性を高めつつ、財源を安定的に確保していきます。また、施設使用料や行政手続の手数料について、受益と負担の適正化が図られるよう、定期的に検証し、必要に応じて見直しを行います。
- 自主財源の確保に努めるとともに、国や県の補助金等の積極的な活用を図ります。
- 予算・決算などをはじめ、財政状況等に関する情報を分かりやすく公開します。また、企業会計の要素を取り入れた統一的な基準[※]による財務書類を作成・公表し、説明責任を果たして行きます。

機能的でデジタル・ガバメントにも対応した組織・態勢づくり

- さらに窓口のワンストップ[※]化に努めるほか、行政施策を効果的に展開できる実行性を備えた組織体制としていくとともに、必要に応じてプロジェクトチームを設けるなど、庁内連携を強化していきます。
- ノウハウを有する民間事業者等へのアウトソーシング[※]について、有効性を見極めながら導入を検討します。
- デジタル技術等の存在を前提として、従来の行政サービスのあり方にとらわれることなく、業務のフローや推進体制を検討し、セキュリティ確保を徹底したうえで、オンライン・デジタル完結を図るなどしてデジタル・ガバメントの実現に取り組みます。
- ビッグデータ[※]や AI[※]、RPA[※]等のシステムやサービスについて、市民サービスの充実や行政事務の効率化に寄与するものを精査しながら、積極的に活用を図っていきます。
- 大規模災害時において、行政サービスの提供が可能な限り維持できるよう、業務継続計画（BCP）の見直しも検討した上で体制を整備します。また、地域防災計画と連動して、随時、BCP を改良するとともに、訓練等も行うなど、業務継続に向けた体制の実効性を高めていきます。
- 近隣自治体をはじめ、民間事業者や学術研究機関との連携を深め、広域的な課題や先進的な課題の解決を図り、施策等の効果を高めていきます。

公共施設・公有資産の適正管理

- 公共建築物及びインフラ施設について、計画的な改修や修繕を進めることで、施設の長寿命化を図り、最大限有効活用していきます。これにより、維持・更新に係る費用や、単年度支出の抑制につなげていきます。
- 公有資産については、市民サービスの充実を前提にした貸し付けのほか、資産全体の状況や、公有地等が所在する周辺状況を踏まえた売却の検討など、有効活用、最適化に向けた運用を図っていきます。

※ 企業会計の要素を取り入れた統一的な基準：行政の会計は、古くから単式簿記、現金主義で行われてきましたが、民間企業などが用いる複式簿記、発生主義の要素を取り入れることが進められています。

※ ワンストップ：1か所で用事が足りること、1か所で何でも揃うことをいいます。

※ アウトソーシング：専門性を有する外部の企業などに業務を委託することや、外部の人材等を活用することをいいます。

※ ビッグデータ：コンピュータやインターネット上で扱われる大容量のデジタルデータのことをいいます。

※ AI：Artificial Intelligence（人工知能）の略です。

※ RPA：Robotic Process Automationの略です。人間が行う定型的な作業を自動化できるシステムのことをいいます。

方針3 人財を活かした行政経営

現状と課題

- 全国的に生産年齢人口が縮小していく中、資質ある職員を計画的に採用していくことが、課題となってきました。

- 国による分権改革、デジタル田園都市国家構想等の取り組みの推進により、市が主体的に政策決定や、行政サービスの検討を行う状況となっています。複雑化する行政課題や市民ニーズ、浸透が進むデジタル化に対し適切な対応が求められる中では、多様な人財を安定的に採用し、育成していくことが重要です。
- 市職員には、一人ひとりが高い使命感と倫理観を持ったうえで、ニーズに即した職務の遂行という実績により市民からの信頼を得ていくことが不可欠であり、持続可能な行政経営という観点からも、その重要性はますます高まるものと考えられます。また、そのような市職員を育成するため、コロナ禍等においても中断することなく、継続的に研修等を実施する必要があります。
- 職員が能力を十分に発揮できるよう、また、多彩な人財が本市での活躍を希望するよう、働きやすい職場環境づくりに努めていくことが重要です。

取り組み方針

資質の高い職員の採用

- 幅広い年齢層から、より多様な人財を確保できるよう、民間企業等での経験や専門知識等の有無なども考慮しながら、人物重視の職員採用を進めていきます。
- 市職員となることを希望する人がキャリアデザイン^{*}を描きやすいよう、行政職員として経験できる業務の素晴らしさや働きやすい職場環境など、本市で働くことの魅力について積極的に発信していきます。

職員の能力向上

- 研修や職場内での業務遂行を通じ、市民ニーズを十分に汲み取り、適切な行政サービスに結びつけていく主体性をもった職員を養成していくほか、職員による業務改善等の提案制度を積極的に運用していきます。
- 個人情報を取り扱う立場であるなど、市職員には特にコンプライアンス^{*}の徹底が求められます。公務員としての強い使命感と倫理観を持ちながら、良質なサービスを提供することで、市民から信頼される職員となるよう、人財育成を進めます。
- 一人ひとりの職員が、時代や社会情勢等の変化を意識しながら自己の能力を高めていけるよう、外部研修機関を活用するとともに、感染症拡大時等にも対応できる新たな研修手法の導入も含めた研修機会の確保に努め、庁内研修の充実を図りながら、職員育成マネジメントを推進していきます。

職員の意欲を高める配置・環境づくり

- 管理的地位も含め、職員一人ひとりの適性や能力が最大限発揮される適材適所の職員配置を進めることにより、業務の効果的かつ効率的な遂行につなげていきます。
- 年齢や性別、経験年数を問わず、能力や成果に基づいて客観的に行う人事評価制度を運用し、職員の意欲をさらに高めていきます。
- ワーク・ライフ・バランスの促進により、職員が心身ともに健康な状態を維持できるよう取り組むとともに、ハラスメント防止を目的とした研修を実施するなど、働きやすい職場環境を整えていきます。

※ キャリアデザイン：自分の職業人生について、自ら主体的に構想し、計画を立てていくことをいいます。

※ コンプライアンス：一般的に法令順守を意味します。